

「仲間のために」を学ぶ『大なわチャレンジ』

校長 小林 雄二

小学校において、たてわり班活動は心の成長に欠かせない教育活動の1つです。

中学校では、秋に行われる『合唱コンクール』が、クラスの団結を育んだり、困難を乗り越える力を付けたりする、なくてはならない教育活動だと聞いています。

小学校のたてわり班活動は、年間を通じて様々な活動が組織され、普通のグループから少しずつ特別な仲間意識に変わっていきます。最後には、チーム愛（家族愛に近い）が芽生えていきます。グループ内では、「思いやり」「いたわり」「感謝」「憧れ」等々、発達段階に応じて様々な感情が育まれます。成長していくたてわり班の姿を1年間追い続けることは、小学校教職員の「楽しみ」や「やりがい」の1つでもあります。

下条小学校では、清掃活動（週2回）、児童朝会（月1回）、『みどりっ子ウォーク』、そして、3学期の『フレンド班大なわチャレンジ』が、たてわり班での主な活動となっています。

1月16日（木）5限、『フレンド班大なわ交流会』が行われました。班ごとに「大波小波」や「八の字跳び」など、大なわに親しみました。しかし、八の字跳びが怖くて跳べない低学年もたくさんいました。活動の最後に、今後の「大なわチャレンジ」に向けて、班ごとにめあてを立てました。

1月22日（水）からは、いよいよ「なわとび週間」が始まりました。朝活動の15分間を使って合計3日間、各班が大なわ（八の字跳び）の練習や記録へ挑戦しました。

その様子を少し紹介します。



◆中々入れない1年生に、掛け声で（又は背中を押して）タイミングを知らせようとする上学年◆初めて跳べ、練習が楽しくなってきた1年生◆苦手な子が跳ぶ時、大きく縄を回し、引っかからないよう配慮する6年生◆前方で跳べない子のすぐあとを間隔をあけずに跳び切る4年生◆「ハイ、ハイ、ハイ」と縄の回転速度を伝え、リズムと勢いをチームにもたらす5年生◆跳ぶ回数が増えるように、順番を試行錯誤するチーム◆間があかないよう並ぶ間隔を詰めるチーム◆前回よりもよくなったことを毎回反省会で褒め、新たなめあてを示す6年生



わずか15分間×3日の「大なわチャレンジ」の取組ですが、一人一人がチームのためにできることを考え、体育館に集まってきます。そして、失敗しても励まし合い、チームに貢献できるようチャレンジし続けます。毎回、最後に行われる3分間トライアルでは、班の記録を伸ばそうと最後の1秒まで皆が頑張ります。その姿には、心打たれます。

結果はともあれ、『仲間のために』の気持ちが6年生から下級生へと徐々に広がっていく様子が見られました。不安そうだった1年生も、皆笑顔で練習に参加できました。これまで1年間一緒に活動し、お互いの個性を知り尽くしているからこそその特別な仲間意識が生れていきます。みんな真剣で、みんなとにかく一生懸命です。昨年度からこのスタイルで「大なわチャレンジ」を実施していますが、今後もぜひ伝統として引き継がれていってほしいと思います。

各班をまとめる6年生は、お兄さん・お姉さんの存在から、お父さん・お母さんに近い存在に変化してきている班もあります。頼もしく学校を支えてきた6年生とも、あと2カ月でお別れとなります。全校の中で、一日一日さみしさが募っていきそうです。

